

昭和12年の松江城天守の調査

—松江城天守実測図—

昭和4年（1929）に国宝保存法が成立し、名古屋城大天守（昭和5年指定）を皮切りに当時現存した天守が次々と国宝指定となり、松江城天守も昭和10年（1935）5月に国宝指定されました。

この頃、全国的に天守を中心とした城郭建築の調査が相次ぎ、松江城天守も昭和12年（1937）に名古屋高等工業学校（現名古屋工業大学）の城戸久助教授きどひさしらが実測調査を行いました。

天守の外側に足場を組み、屋根の上から床板の下までくまなく調査しており、精確で巧みな描写の実測図は見事な出来栄えといえます。

当時の新聞記事によると、①慶長16年銘の祈祷札（「寄進札」「護摩札」）の発見により築城年代を確定できたこと、②柱の墨書ぼくしょから4回にわたり修理した事実が明瞭めいりょうとなったこと、③腐朽ふきゅうが甚だしく全体的な修理が求められること、などを成果として挙げています。

松江城天守実測図

昭和12年（1937）

城戸久きどひさしほか作図

全92枚、各19.0cm×26.5cm

松江歴史館蔵

昭和12年7月25日頃から8月15日頃の約20日間かけて、名古屋高等工業学校（現名古屋工業大学）の城戸久助教授と助手2名が松江城天守の現状を細かく実測した。平面図、断面図、立面図（姿図）、見上げ図、床伏図など、昭和の解体修理工事以前の松江城天守の姿を知ることができる希少な資料である。

城戸 久 (きど ひさし)

1908年－1979年 (享年 71歳)

日本建築史、特に近世城郭建築の専門家として、昭和10年代に恩師土屋純一名古屋高等工業学校校長の指導を受け、犬山城天守、大垣城天守、彦根城天守などを皮切りに多くの近世城郭建築の研究に携わる。

昭和12年(1937)、研究のため前述の土屋校長とともに松江城天守の調査を行い、詳細な実測図を作成する。同調査で慶長16年銘の2枚の祈祷札を発見するが、昭和25年から同30年(1950-55)に実施された松江城天守解体修理工事の報告書に当該祈祷札の記載がないことから、昭和41年(1966)発行の『仏教藝術60』に掲載した論考「松江城天守」で、祈祷札確認の事実を述べる。

1929年名古屋高等工業学校(現名古屋工業大学)建築学科卒。1934年名古屋高等工業学校助教授、1942年同教授。1945年から名古屋工業大学教授。1972年定年退官後、名城大学教授を務めた。工学博士。1973年紫綬褒章受章。

わが國城郭研究の歴史、名古屋高等工業学校城戸久助教授は七月二十日(名)の助手とともに松江城の専門的調査に来松し、爾來一ヶ月間天守の外側に足場を組み築根の上から城板の下までくまなく調査を怠らなかつた。調査の結果、慶長十六年銘の二枚の祈祷札を発見し、かつ詳細な実測図の編纂を終へ十六日松の十層間校舎を巡りて調査の報告合せをなしたが、城戸助教授は左のごとく調査の成果を述べた

全国の城廓 調査を断つて、松江城の調査を行ふ目的で、二三年前からの仕事を始めてゐる。松江城は慶長十六年の築城であるが當時の城としては、城上りも費用を重んじた防禦的な構造で、濠溝を備へた古い形式の外廓と土垣廻りとしての部分がないといふ内部の新形式との懸隔が明白い。歴史的にみても稀に見る廢れた城で、入り口を入つて内部に掘りこむと、内廓から内廓に向つて鉄眼があるのは、前廊が敷かれて、最後の一級を死守しようといふ氣魄がうかがはれ、二層にある懸け梁間の配置も、精巧で、外部からは看不出ないなど感心すべき設計が多い。なほ城廓は東北に向つて傾斜し、東北隅の石垣はとんと

命懸きで は内部に城の構造をよく知らなく、全体的に修理は修繕の成であると思はれる。今度の調査で、調査結果は慶長十六年の日付を記載される。調査

松江城の専門的調査を終了す
だが修理は焦眉の急

七年、昭和四年、元三年の調査にわたつて、城廓や外廓を修理修築した事實が明らかとなつたこと、内部の柱にも補修工作の跡も、あるものがある。城廓のとれた塔力にあふれた外廓は、調査目的のため、あらゆる必要を綜合せしめ、調査と合せてこの松江城は、城に属するものではないものと、四十一年、天守閣に掛ける城戸助教授の助手たち

『朝日新聞島根版』(昭和12年8月18日)部分

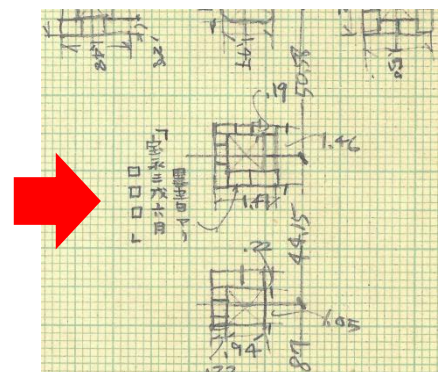
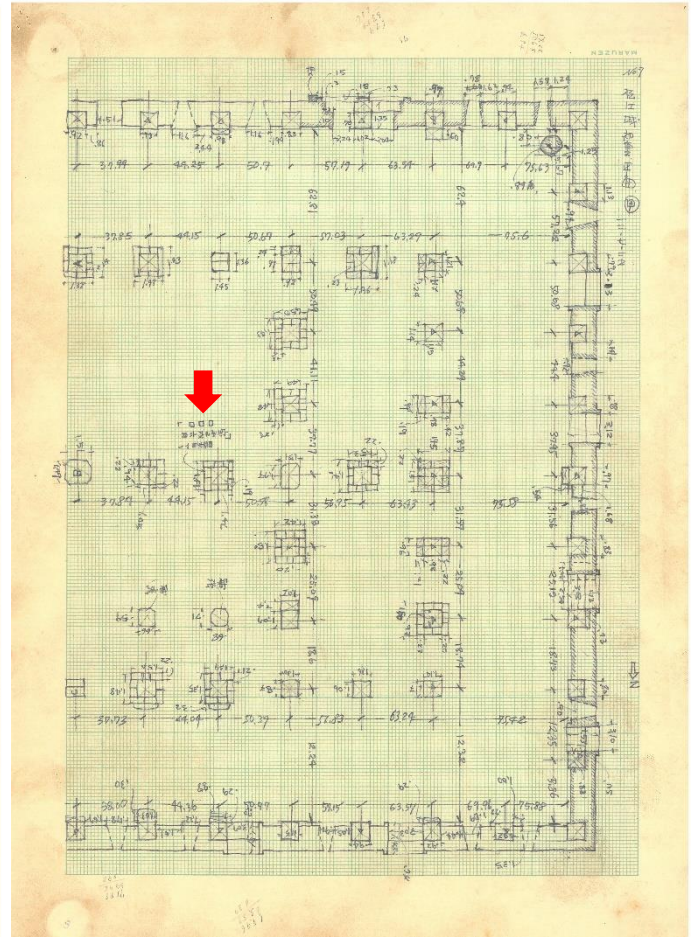
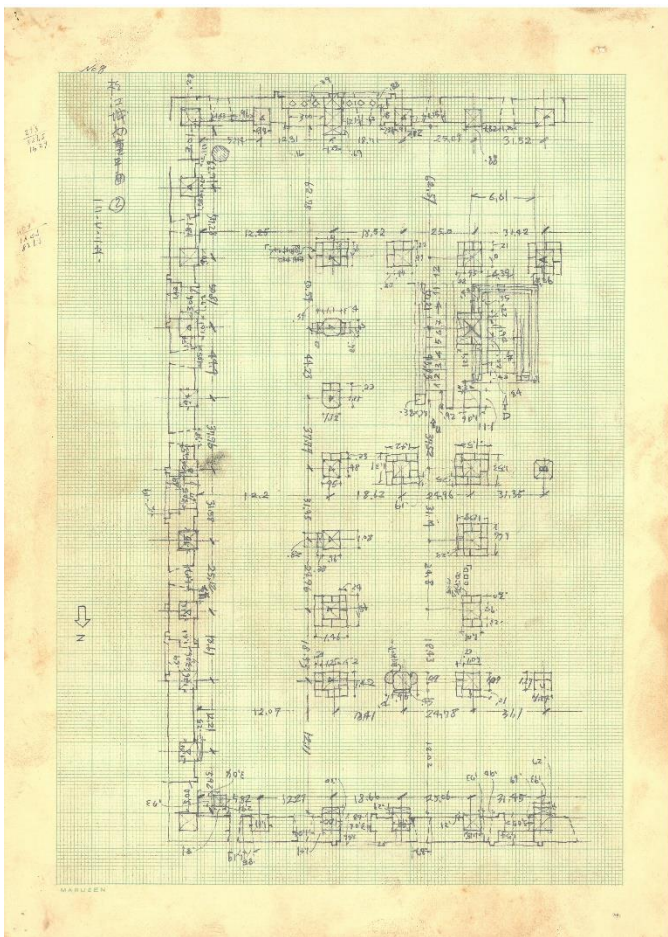
参考文献

- 亀井伸雄 2018「昭和12年の「松江城天守実測図」について」『松江城天守実測図(城戸久氏調査図面)』
松江城関係資料集1 松江市
- 新庄正典 2016「昭和12年に行われた松江城調査とその報道—城戸久氏の実測図面と新聞報道を通して—」
『松江歴史館研究紀要』第5号 松江歴史館

「No. 7 松江城初重平面（甲）」

「No. 8 松江城初重平面（乙）」

松江城天守1階の平面図で、No. 7（甲）は西側半分、No. 8（乙）は東側半分の図面である。両図とも「一二・七・二五」の文字から昭和12年7月25日の実測だとわかる。「△」印は1階から2階までの通し柱を示す。No. 7（甲）の中央付近に書かれた柱の包板には、「墨書アリ「宝永三戌六月／□□□」」と注記する。
つつみいた



「No.14 松江城天守南北四重断面図（1）東向」

「No.26 松江城初層東西断面図 南向1」

松江城天守の1階（No.26）と4階（No.14）の断面図である。両図とも本来直線であるべきはずの水平基準線（朱線）が途中で右下がりに曲げて調整した線引きとなっている。それだけ天守各階が傾いていたことを示している。

